

お客様
より

いつまでも オアシスのような まほろばで!!



西野在住 笹岡 愛子様

宮下周平・洋子様

前略

すっかり秋風に変わり、昨日は西野神社のお祭りの山車があり、あたたかい日に、昔懐かしい行列を見学いたしました。行列がまほろば前の道を賑やかに通り過ぎ、楽しく見せてもらいました。9月6日の地震の後、仁木の方は大丈夫でしたか？

昨年夏に仁木に近い銀山出身の澤井さんと一緒におじゃました際は、大変お世話になりました。今年も引き続き、先日8月24～30日の間、採り入れの忙しい中を見学させて頂きました。

めずらしい、ブータンの辛いなんぼん（社長さんの人脈）、珍しい漢方薬草等々、前方奥には出べそ山、そして広大な農地が広がり、ディーズル列車が通り（のどかです）、一日中太陽が当たる何と素晴らしい土地に恵まれ、作物を作ることができて、社長さん夫婦が「小国寡民」を生きるにぴったりの風景がありますね。

去年よりも、野菜たちは光り輝いていましたね!! 朝、夕、愛情いっぱい育てられていますのがわかります。去年の時も珍しい野菜たちが生き生きと育っていました。今年はまだ、3年目となり、一段と、トマトや胡瓜、すいか、南瓜、紫なす（ローザビアンカ）等々、どれを見ても元気いっぱい野菜たちでした。



写真提供：笹岡様



私は、発寒川河川公園のボランティアを始めて今年春で22年目に入りました。

9月19日に、西土木の担当の方と昼1時から5時まで公園の巡回をし、スズメバチが太さ1m50cmもある大木に巣をつくっており、マムシも地震でビックリしたのでしようか？ 小さな昆虫も、マムシも、8月の蒸し暑い湿度の高い日に石の上で日向ぼっこしているのに、地震で土も、石の中のお家も揺れて、びっくりポンで、地上に出てきたのだらうと、人間の私は、チト、考えてみました。

発寒川のごみ拾いのボランティアを始めたきっかけは、50歳の時。妹と、もう一人近所の奥さんと。その方は、くも膜下出血で倒れ、頭を手術して助かった70歳の先輩で、「助かった命だから、何か世の中の役に立ちたい」と言って参加してくれました。

最初の10年間は、中の川の淵を仲間五人で犬の糞を拾い、花を植えてきました。その後、引越しをきっかけに、そばを流れる発寒川がきれいで気持ちよく、ヤマベを釣ったり、朝、夕、良い空気を吸ったり、散歩したりしていました。ある日、トイレの前に、焼肉のゴミが畳10枚分ほどの残骸の山になっていて、驚き、見てみないふりをして横切っていました。こんなきれいな河川に、このゴミはいらないと思い、市に話してもあまり良い返事もなくて、妹ともう一人の奥さんに相談して、一週間考えました！！

「もう50歳、やれるだろうか？」と、頭の中をよぎりました。一大決心がいました。カラスに魚をやる人、犬の糞の入ったビニールを平気で川に投げ捨てる人。大きなビニール袋二つ分もあり、片付けるのに8時



写真提供：笹岡様

間もかかりました。また、ゴミ拾いのハサミで焼肉の食べかすを拾い分別して、焼肉の後始末等々、3人で朝5時に集まりやっていたりましたが、妹は夫や子供のごはん支度や、家が遠いことから止めてしまい、途方にくれました。あとは、河川のカンを拾ったり、魚釣りの人に呼び掛けたり、みんなにお願いしてやるのみ。

今、22年経って、みんながビニール袋をもってゴミを捨てられるようになりました。ありがたいと思っております。

春は桜満開。曲線を描く河川の流れ、緑の山々、鳥や白樺の大木。河川の流れる音のリズムの心地よさや、いろんな小鳥の鳴き声が河川に響く音、川面が太陽に照らさ

れてキラキラ輝いており、その自然の織り成す春夏秋冬は、まるで映画のワンシーンのような風景。そこを歩く人々やら、メセナ的に音楽をやっている人やら、釣り人やら、マラソンの選手たちや高校生グループやら、昨夜は小学生のグループが頭にカンテラつけてスポーツジム主催で夜8時ころまで励んでいました。空気と緑、西野の地域の財産だと思います。

私は滝上町の出身ですが、4人の子供を育て、この西野に50年、半世紀も暮らすことになりました。昔は西野の山の上の方に住んでおりました。店もなく不便でしたが、最初に住んでいた中央区の西線電車通りに比べれば、川や山や畑がある西野の方が良いと建売に移ってきました。私の家系はアレルギー家族で、父の遺伝子が子に及び、4人の子供全員がアトピーやら喘息やらで大変難儀していました。祖父もひいおじいちゃんもぜんそくで死にました。父も61歳で亡くなりました。私も妊

娠してからホルモン異常で入院をし、29歳で命がけのお産になってしまいました。子供も私も妊娠性喘息になってしまいました。死に向かいながら難産で、4人目の男の子を産みましたが、喘息の塊のような子供で、私も喘息が消えず病院通いの日々明け暮れました。母と子のセットで、『漫画王』と『別冊』みたいと看護婦さんに言われては、母子共に入院の連続でした。上の子三人は、私の姉や妹と、

務めていた母親が、仕事が終わってから我が家に寄り、洗濯・掃除、子供たちの面倒を見てくれ、夫は5歳の娘を妹の店に預けてから会社へ出かけていました。死んだ夫も私や子供のアレルギーには大変苦労したと思います。

その頃（昭和50年後半頃）、まほろばの社長さん夫婦が、自然食品を車に積んで、山の上の不便な住宅街に、週何回か移動販売に来てくれました。奥様も赤ちゃんを連れ、売



写真提供：笹岡様

りに来て下さり、店は旧5号線の発寒川近くだったと思います。今のシステムと変わらず、米は挽いてからの販売でした。自然食品を扱う店なのに、魚も生きが良くて、味噌、醤油も多少高くても体にいいものを食べたいと思いました。

アレルギー体質のひどい一家で、何年も難儀しましたが、今はお陰様で孫12人と、ひ孫2人に恵まれて、まさか？こんな年齢まで生きられるとは思ってもみませんでした!!

お陰様で夫亡き後も、4人の子供がいたおかげで、お嫁さん3人と、娘夫婦は東京なのでさみしい思いも多少ありますが、今は孫の成長を楽しみにしながらおります。

発寒川の環境の生態系のリズムを見ながら、動植物や魚たちから真剣に生命のメカニズムをたんとと学ぶこともしながら、感謝、感謝でおいしい空気を吸わせて頂いています。山の緑や、今は紅葉が日増しに進んできており、2階の窓から朝、夕、山並みと空の雲とに語り掛け、俳句の一句でも詠みつつ、1年をとってもこんなに楽しく、麻雀会、パークゴルフ、俳句の会、お礼の意味でボランティア等々…。これからボケも進んでくるし、この年齢まで人生いろんなことが山ほどありますが、お天道様がお迎えに来る日まで、日々、今日も眠られる、うれしい!! 今日小鳥の鳴き声を耳に聞きつつ目覚める。この自然が最高のぜいたくな暮らし、「日々是好日なり」と、心の充実を目指して生き続けていたいと思いを巡らしながらいます。

昭和41年にこの地に暮らし始めた頃から見れば、大都会の便利な西野になりました。近くにまほろばさんがあるの
で、トーフ、納豆、魚、肉、メロン、野菜と、やさしい店
員さんたちに恵まれて、大変感謝しております。社長さん
夫婦が長年育ててきた人材。どの人と話をしても、人間を
平等に思い、商売とは言葉と態度と腫が表現しております。社長
さんが仁木の農場に行かれてから、ずーっと店におじゃま
虫をしながらか皆さんと触れてきましたが、従業員が一致団
結をして働いている姿に、私も昔、商売をしていた関係上、
社長さん夫婦は幸福者
だと思っております。

最近、朝早く裏口か
ら入った時、ビックリ
したことがあります。
店長さんがトイレ掃除
をしていたこととし
た。私は一番番頭さん
とふざけて呼んだりし
ておりましたが、本当



写真提供：笹岡様

にびっくりポンでございました。また、編集長の島田さん
は、自転車で発寒川淵をこいでまほろばに出勤されている
姿など見かけ、私は心の中で足長おじさんと呼んでおりま
す。昼休みに上の方の小滝の河川ぶちでカメラとか、瞑想
にふけておられるのか？ きつと自然のエネルギをい
ただきに来ておられるのだろうと―勝手に思い込んでおり
ます。ピュアな心でレンズを見つめ、写した写真を25日の
スライドで大きな画像でみせていただきました。本人の朗

読を聞きながら感動いたしました!! 良い社員さんに恵ま
れて、社長さんの人間性からだと思いますが、まほろばが、
またまた好きになりました。

島田さんが10/25に詩で語っていたように、まったく宇
宙と人間は一体で、小宇宙の人間と地球の自転・好転とリ
ズムが一緒の妙なるもの。地球は一つなんだから、戦争
はもういらぬし、地球上では、まだまだ戦っている国が
ある。どうぞ平和な地球になってほしい!!

明治・大正・昭和の3代の世代から戦争の話を聞いて育
ち、道東のオホーツク圏、滝の上町出身なので、ソビエト人、
アイヌ人、日本人の引き上げ村がありました。

戦争のあたりを受けて、戦争の悲しみ、苦しみ、
貧乏の辛さを見て来たので、戦争は絶対にい
けない。父や母やおじいちゃん、ひいおじい
ちゃんの体験した思いは、イラナイ!! 私は
終戦子ではあるけれど、北の果てオホーツク
の村で戦後の悲しみを見つめてきました!!

まほろばには、これからも砂漠の中のオア
シスの存在であってほしいと願っています。
美味しい水と体にやさしい商品の店、まほろ
ばさん。地域のオアシス、生命のオアシスでありますよう
に!!

ますますの発展をお祈りし、感謝
の想いでペンを置きますね。ありが
とうございます。

草々

